

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
21・7・24(土)
南NEWS no 42

『トットちゃんとカマタ先生の ずっとやくそく』

黒柳徹子 蒲田實 新潮文庫



カマタ先生のひとりごと 「共感する力が大事」

p 90~92

自分の短所や欠点を笑いの中で言えたら、勝ち。誰にでもなくて自分に勝ちだと思ふ。徹子さんは常に自分を冷静に見て、いやそれどころか、「自分は欠落人間だ」と宣言して『トットの欠落帖』（新潮社）という素敵な本まで書いている。……中略……

優れた面も桁はずれだ。テレビや舞台の仕事は勿論、子どものころのことを詳細に覚えているし、語学に堪能らしい、読書量もすごい。おしゃべりが上手い、魅力的な人である。

機関銃のようにしゃべれるけれど、その話がおもしろく、僕は思わず聞き入って、そして腹を抱えて笑ってしまう場面も多かった。けどしゃべることと同じくらい、よく聞いて、理解してくれる。コミュニケーション能力が高いのだ。

コミュニケーションは共感する力があってできる。共感とは相手の気持ちを知って、その気持ちに心を添わせることだ。単なる同情ではなくて、話しているその時に心を通わせることだと思ふ。共感する力があれば、人はわかり合える。僕たち医者や、先生や、人と関わる仕事にはとても求められている力だと思ふ。いや、職業的なことだけじゃない。いま、何となくぎすぎすした日本の社会だけれど、みんなが共感力を高めて、コミュニケーションができれば、優しさを伝え合えると思ふ。徹子さんと語り合って、改めて思った。

人生の中で一度、無条件で愛される、炊きしめられるって、すごく大切なんだと思ふ。抱きしめられる素晴らしさを知っている子は、成長していつか人を抱きしめてあげられる大人になる。愛されたことのある子は成長して、人を愛することに躊躇しない。人生の中で、愛したり愛されたり、抱きしめたり抱きしめられたり、いっぱいできるといいなあ。

死んだ母とは、約束はしなかった。でも、僕は忘れない。病院のベッドで、小さなころ、母に抱きしめられたことを。大切な思い出。ずっと忘れない。



7/24(土) 幼児~3年生 紅白戦

朝ごはん

p 238~240

トット いま、食べ物があふれている日本で、朝ごはんを食べる子が減っているそうですね。学校で、朝ごはんを子どもに食べさせてくださいという指導をされて、「あら、朝ごはん、子どもに食べさせた方が良いんですか」というお母さんがいたそうです。これも聞いた話ですが。

カマタ いや、あり得ます。しかし「朝ごはんを食べさせなければいけない」という生きる上での基本的なことを、お母さんが思わなくなっていたのでは、

子どもが元気に楽しく、学校で学べないのではないかと心配です。朝、ごはん
と味噌汁とちょっとした野菜を食べて学校に行けば、考える力も出るし、体を動かすのも楽。少々困ったことが起きても乗り越える力が出てくると思うけれど、肉まんをチンして食べさせて、さあ学校へ行っておいでと言っても、栄養価は高いかもしれないけれど、食べるって、カロリーだけじゃないような気がするんですよ。料理する音とかにおい、動き、いろんなものがかかると思うんですよ。朝、家の中で、トントンとお母さんが野菜を刻む音が聞こえたり、味噌汁のいい匂いがしてくる、そういうこともとても大事だと僕は思っています。

トット 安心感みたいなものですね。それって大事だと私も思います。みんなが行きたがって入学希望者が殺到している小学校というのを先日、テレビで見ました。授業が面白い、先生が魅力的。実習というか、子どもたちが討論したり積極的になんでもやって、とても面白い勉強をやっています。その学校の先生は「とにかく。子どもに朝ごはんを食べさせなければ、成績が良くなりません」と言い切っていましたね。何があっても朝ごはんを食べさせるように、そのためにも夜は早く寝てくださいと言う。早く寝て。ちゃんと起きて、朝からごはんをしっかりと食べて、それがちょうどエネルギーになるころ学校に着くといい、ということですね。

カマタ うん、食事は大事。トットちゃんの学校のトモエ学園では、校長先生の考えで、子どもたちの弁当には「海のもの、山のものを持たせてください」とおうちの人をお願いしていたそうですね。いいなあ、その発想。親御さんは一生懸命、「海と山、海と山」と考えて作ったでしょうし、子どもたちはお弁当のおかずのどれが海でどれが山か、どうやってできた食べ物なのか、考えながら食べたことでしょう。



7月24日(土) 5年生 紅白戦



